

1.1 概要

本問の構成は、(1)で積分の不等式評価を行い、それを元に(2)で極限値を求める流れとなっています。このような形式の問題では、(1)の不等式評価の方が難しい傾向にあります。なぜなら大抵の場合、不等式評価をした結果に対してはさみうちの原理を適用すれば(2)の極限値は求められるからです。そのため、(1)をクリアした受験生は(2)もクリアしていくと予想され、点数の差がつく問題であると考えられます。